焼岳全域図

焼岳全域図凡例	
△	山　頂（山岳名）
———	登山道
- - - - -	登山道（一般的ではない難路）
———	有料道路
———	道　路（路線番号）
———	川・沢（川・沢名）
▭—▭	ロープウェイ
届	登山届ポスト
山小屋等	
危	危険情報
!	注意喚起情報
〒	火口域からの距離標識

登山をするにあたって

余裕をもった計画をたてよう

- 山登りは朝からはじめ、明るいうちに下山するのが鉄則です。
- 天候が悪い、体調がすぐれないなど悪条件のときには無理に登らず、またの機会を待ちましょう。

出発前の準備と必要な装備

- 登山は登山者の自己責任が原則です。事前にルートや天気、危険箇所、避難施設についてよく調べ、装備を整えてから登山しましょう。

□ヘルメット	□飲み物	□雨具・防寒具
□ヘッドランプ	□非常食	□帽子
□ゴーグル	□救急用品	□手袋
□地図	□緊急連絡票	□ホイッスル
□コンパス	□無線もしくは携帯電話	□携帯トイレ
□自分の名前や連絡先がわかる物	□携帯電話予備バッテリー	□熊鈴

check! 持ち物チェックシート

登山届を必ず提出しよう

- 登山届ポストや県、警察署などで提出しましょう。
  登山届提出はアプリ（コンパス、YAMAP）が便利です。裏面に各アプリのQRコードを掲載しています。

山の中の危険に注意

- 山の中には崖など危険なところがたくさんあります。登山道から外れないよう注意しましょう。また、登山道であっても落石、倒木、スズメバチやマムシなどの危険が身の回りに潜んでいます。
- 熊の出没が増えています。熊鈴を携帯する等、対策しましょう。

スズメバチに出会ったら
ハチを刺激しないように通りましょう。カチカチと音を立てて何匹も飛んでくる場合は近くに巣がありますので、すみやかに引き返し立ち去りましょう。

気温や天候の変化

- 山岳地域では、急激に気温が下がる場合や天気予報で予測されない天候の変化があります。雲の様子や気温の変化、雷、風、視界などに注意しましょう。

急な増水

- 降雨時に河川や沢沿いを歩くときは、急激に水位が上昇するおそれがありますので、注意しましょう。

噴火や火山ガスに注意

- 何の前ぶれもなく噴火する可能性もありますので、常に火口付近の様子に気を付けましょう。
- 火山ガスは窪地や谷などに溜まっていることがありますので、絶対に立ち入らないでください。

自然公園等の情報

中部山岳国立公園

中部山岳国立公園

中部山岳国立公園は、北アルプス一帯を占める山岳公園です。昭和９年に誕生した最初の国立公園の一つであり、白馬岳などを有する後立山連峰、剱岳・立山などを有する立山連峰、槍ヶ岳などを有する穂高連峰、最南部にそびえる乗鞍岳など標高3,000m級の山々で構成されています。切り立った岩壁や高山帯のお花畑やライチョウ、夏まで残る雪渓や氷河が削ったU字谷、火山がつくりだした湖や溶岩台地など、多彩な山岳景観を呈しており、訪れる登山者を魅了しています。また、この公園内に位置する平湯や新穂高、栃尾、福地、新平湯の５つの温泉地を総称して奥飛騨温泉郷と呼びます。湯量が豊富で、露天風呂も数多く、ゆったりとしたひと時を楽しむことができます。

自然公園の利用上のマナー

自然公園内では自然を大切にすることを心がけ、次のことを守りましょう。

- 登山道からはずれないでください。
- 植物や動物をとらないでください。
- 野生動物本来の生態を守るため、餌を与えないでください。
- 入山前にトイレを済ませ、道中は携帯トイレの利用も考えましょう。

火山登山者向けの情報提供ページ

自然公園の多くには、活火山が含まれています。焼岳・アカンダナ山は活火山であることに留意し、正しい知識を持つことが大切です。登山前に、最新の噴火警戒レベルや火山情報を確認しましょう。

焼岳の活動状況 …… QRコード▶
URL https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/310.html

アカンダナ山の活動状況 …… QRコード▶
URL https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/335.html

焼岳の火山観測データ …… QRコード▶
URL https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/open-data/open-data.php?id=310

火山活動史

●焼岳の火山活動史

過去1万年間の噴火活動

焼岳の形成は15000年前頃から始まり、活動の初期には黒谷付近に溶岩や火砕流を噴出した。最近１万年間にも溶岩や火砕物の噴出が続き、約2300年前には最新のマグマ噴火が起こり、この活動で焼岳円頂丘溶岩と中尾火砕流が同時に噴出した。この噴火の後にも、４回／千年の割合で水蒸気噴火が発生している。

有史以降の主な火山活動

噴火年代	現象	活動経過・被害状況等
▲630年	水蒸気噴火（小規模）	火砕物降下。噴火場所は山頂付近。
▲685年	水蒸気噴火（中規模）	火砕物降下。噴火場所は山頂付近。
▲1270年	水蒸気噴火	火砕物降下。噴火場所は山頂付近。
▲1440年	水蒸気噴火	火砕物降下。噴火場所は山頂付近。
▲1460年	水蒸気噴火（中規模）	火砕物降下。噴火場所は山頂付近。
▲1570年	水蒸気噴火	火砕物降下。噴火場所は山頂付近。
▲1746年	水蒸気噴火（中規模）	火砕物降下。噴火場所は山頂付近。
1887(明治20)年頃から	噴気	中尾峠北側小丘に噴気孔を生じ、次第に山頂方面に及び樹木枯死。
▲1907～09（明治40～42）年	水蒸気噴火	火砕物降下。降灰、旧火口底に新火口生成。噴火場所は正賀池火口、正賀池火口東側。1909年噴火:旧噴火口の西端近くに新火口生成。
▲1910～12（明治43～45）年	水蒸気噴火	2回噴火。火砕物降下。鳴動、降灰。噴火場所は正賀池火口、隠居孔火口。1911年噴火:火口生成。1912年噴火:降灰。
▲1913～14(大正2～3)年	水蒸気噴火	火砕物降下。鳴動、降灰。噴火場所は隠居孔火口。
▲1915(大正4)年	水蒸気噴火（中規模）、(泥流)	火砕物降下、泥流。噴火場所は大正池火口、隠居孔火口。6月噴火、噴火直前に地震群発。山頂東側の標高約1900mの台地から山頂東側壁に達する長さ1kmの大亀裂を生じ、この底部に数十個の火口生成。爆風による倒木、泥流による梓川のせき止め、決壊、洪水発生。大正池生成。同年7月小爆発。
▲1916(大正5)年	水蒸気噴火	火砕物降下。降灰。噴火場所は大正池火口、隠居孔火口。
▲1919(大正8)年	水蒸気噴火	火砕物降下?噴火場所は黒谷火口、隠居孔火口。
▲1922(大正11)年	水蒸気噴火	火砕物降下。降灰。噴火場所は黒谷火口、隠居孔火口。
▲1923(大正12)年	水蒸気噴火	火砕物降下。噴火場所は黒谷火口、隠居孔火口。鳴動、降灰多量、養蚕に被害。
▲1924～26（大正13～15）年	水蒸気噴火(泥流)	火砕物降下、泥流。降灰。噴火場所は隠居孔火口、黒谷火口。1925年噴火:噴石、火柱。鳴動、降灰広範囲、本噴火イベントに伴う泥流が発生。1926年噴火:小噴火、降灰。
▲1927(昭和2)年	水蒸気噴火	火砕物降下。降灰。噴火場所は隠居孔火口、黒谷火口。
▲1929(昭和4)年	水蒸気噴火	火砕物降下。鳴動、降灰。噴火場所は隠居孔火口、黒谷火口。
▲1930～31(昭和5～6)年	水蒸気噴火	火砕物降下。降灰。噴火場所は隠居孔火口。
▲1932(昭和7)年	水蒸気噴火	火砕物降下。降灰。噴火場所は詳細不明。
▲1935(昭和10)年	水蒸気噴火	火砕物降下?爆発音、有感地震。噴火場所は詳細不明。
▲1939(昭和14)年	水蒸気噴火	火砕物降下。降灰。噴火場所は詳細不明。
1953(昭和28)年	地震	7月下旬。
1958(昭和33)年	地震	6～9月。
▲1962～63（昭和37～38）年	水蒸気噴火（中規模）、(泥流)	火砕物降下、泥流。噴火場所は中尾峠爆裂火口、黒谷火口。中尾峠側の山腹に長さ500mの割れ目(新火口)生成、多量の噴石、降灰、火口付近の山小屋で負傷者2名。
1968(昭和43)年	地震	上高地付近で有感地震（最大震度3）が頻発。詳細不明。
1969(昭和44)年	地震	8月、M4.7の直後から地震群発し、9月下旬まで継続。9月2日M5.0（震度3）。震源は焼岳東方の霞沢岳付近。
1990(平成2)年	地震	4月1日～5月上旬。震源は焼岳の東方約10km（最大M4.4）。
1995(平成7)年	水蒸気爆発	焼岳山頂の南東約3kmの安房トンネル建設に伴う国道158号線付け替え工事作業現場において水蒸気爆発が発生し、火山ガスを含む水蒸気と6000㎥を超す土砂が噴出し、またその衝撃によって土砂崩れも引き起こされた。作業員4名が犠牲となった。
1998～1999（平成10～11）年	地震	8月～翌年。上高地付近(東南東約5～10km)を震源とする群発地震活動が始まったが、徐々に地震回数は減っていった。
2011(平成23)年3月～12月	地震	東北地方太平洋沖地震（2011年3月11日）以降、山頂直下～北西麓の浅い所での地震活動が活発化。有感地震多発。3月11日14時57分M4.7（震度4）、21日13時15分M4.8（震度3）。
2017(平成29)年	噴気、地震	8月9日、10日。空振を伴う低周波地震が発生、黒谷火口において白色の噴気が100m程度まで上がるのを観測。黒谷火口内で弱い噴気と土砂が噴出した跡を確認。
2018(平成30)年	地震	11月22日頃から山頂の北西1～2km付近のやや深いところを震源とする地震が増加。12月4日には山頂の東2km付近でもやや深いところを震源とする地震が一時的に増加。
2019(令和元)年	地震	7～10月。空振を伴う火山性地震がたびたび発生。地震発生時、噴気の状況に大きな変化は認められず。
2022(令和4)年	地震	5月23日23時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加。翌日（24日）に噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き上げ。令和4年7月12日に噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）に引き下げ。

※気象庁ホームページより　※▲は噴火年を示す。

●アカンダナ山

過去1万年間の噴火活動

アカンダナ山の下位に分布する火砕岩中から約12000年前の年代が得られ、さらにアカンダナ山から噴出した外輪山溶岩によって堰き止められた安房平に堆積した湖成層から9500～1万年前の年代が得られている。このことから、外輪山溶岩はおよそ１万年前に噴出したものと推定される。さらに、活動年代は不明であるが、この後に現在三角点がある山頂を形成している溶岩ドームが噴出した。

有史以降の火山活動

記録に残る火山活動はない。

観光情報

※令和6年3月時点のものを記載しています。

高山市 -takayama-

北アルプスの山々～奥飛騨地域のみどころ～

奥飛騨地域は、槍・穂高連峰・乗鞍岳・岐阜県の単独最高峰の笠ヶ岳の名峰に囲まれています。これらの山々は北アルプスと呼ばれ、中部山岳国立公園としても知られています。北アルプスは多種に渡る高山植物や高山ならではの動物など貴重な自然に満たされています。

新穂高登山指導センター

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷神坂710番地９（新穂高センター内）

新穂高登山指導センターは、北アルプス山岳遭難対策協議会と岐阜県警察本部により運営しており、登山シーズンには24時間体制で登山指導を実施しています。登山をされる方は、必ず登山届を提出し、ヘルメットを携行しましょう。

☎0578-89-3610
（お問い合せ時間帯：平日の午前８時30分～午後５時まで）

奥飛騨温泉郷観光案内所・休憩所

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷神坂710番地９（新穂高センター内）

奥飛騨地域の観光スポット情報が手に入る総合案内所です。観光や登山を楽しむ前に、ぜひ一度お立ち寄りください。

🕒４月から10月　午前10時から午後５時まで（ゴールデンウィーク、夏休み、紅葉時期は午前９時から臨時開館予定）
　11月から３月　午前10時から午後４時まで　休年中無休　☎0578-89-2458

新穂高の湯

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷神坂（新穂高温泉）

巨大石で造られた開放感が溢れる露天風呂。蒲田川のほとりに造られており、そこからはダイナミックな渓流の流れや、槍ヶ岳、笠ヶ岳など北アルプスの大自然を眺めながらの入浴が満喫できます。
※川水のさし込みにより「ぬる湯」となります。予めご了承ください。

期 4月下旬～10月30日　※冬季は休業となります。
時 8:00～18:00　休 無休（河川増水時休業の場合有）　¥ 清掃協力金（300円程度）　駐 駐車場あり（無料）
☎0578-89-2614（奥飛騨温泉郷観光協会）

新穂高ロープウェイ

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷新穂高温泉

日本唯一の2階建てゴンドラに乗れば、子供からお年寄りまで、気軽に標高2,000mを超える絶景を楽しむことができます。残雪と新緑の「春」、自然と青空のコントラストが美しい「夏」、色鮮やかな「秋」、山々が雪化粧をする神秘的な「冬」。その季節に合わせて、表情が異なる360°の絶景が一望できます。

時 季節によって異なるのでお問い合わせください（通常時（上り）8:30～16:00）　休 年中無休 ※強風時・定期点検の場合、運休することがあります。　¥ 大人3,300円、小人1,650円（新穂高温泉～西穂高口 往復）
駐 新穂高温泉駐車場　乗用車600円（6時間まで。6時間ごとに600円追加）、バス2,300円/6時間
☎0578-89-2252

平湯大滝

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷平湯

日本の滝百選に名を連ね飛騨三大名瀑の一つとして知られている平湯大滝。四季折々に美しい表情を見ることができます。毎年２月15日から２月25日まで平湯大滝結氷まつりが開催され、凍った滝のライトアップが楽しめます。

休 年中無休
¥ 入場料無料　駐 無料（冬期閉鎖）
☎0578-89-3030（平湯温泉観光案内所）

火口域からの距離標識

登山道の状況について

- ○岐阜県が独自に調査した箇所について表示しています。
- ○登山道の状況は2016年８～10月に行った調査結果です。
- ○登山道の状態は、天候等の影響により変動することがありますので、注意しましょう。
- ○山小屋等施設を利用する際は事前に利用の可否について管理者に確認しましょう。

1:40,000
1000m　0　1000　2000

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000及び電子地形図20万を使用した。（承認番号　平成27情使、第191号）」

調製：東海図版株式会社